

平成 21 年度 (2009 年度) 事業報告書

LOOB JAPAN/LOOB Inc.



<http://loobinc.com/index.html>



1. 概況経緯

LOOB は、2001 年の団体発足以来、日本とフィリピンの文化的・教育的な人的交流、および現地の低所得者層を対象とした地域開発、教育・医療支援などの活動を推進しています。

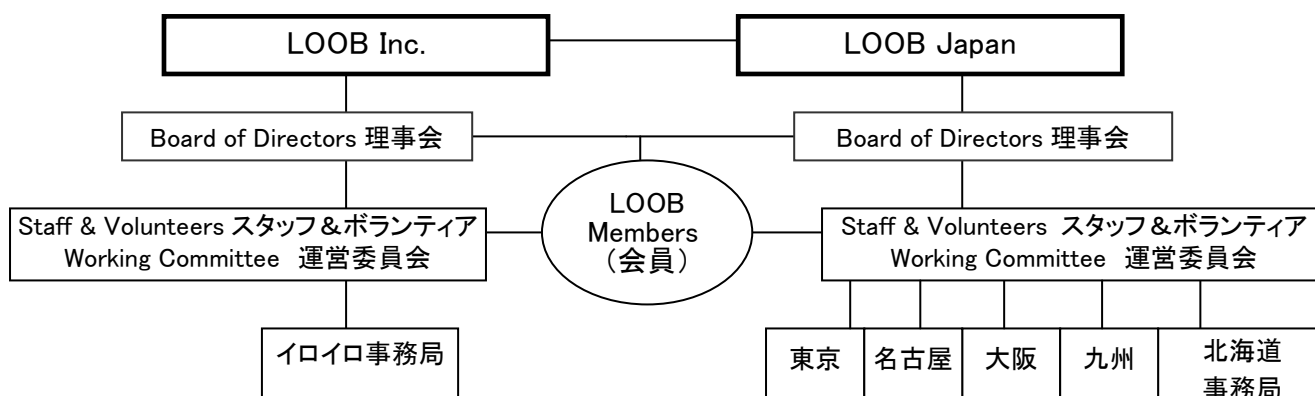
2009 年は、日本国内では、1 月かめのり賞受賞、4 月アースデー東京に出展、5 月学生団体とのコラボ、10 月グローバルフェスタ出展、10 月九州と名古屋ランチが発足など、また現地では 2 月エコキャンプ、7 月日韓比キャンプ、9 月ナバイスキャンプ、11 月学校給食、12 月カレンダープロジェクトというふうに、たくさんの新企画に挑戦できた年でした。

これらの新しい活動を始められたのは、日本のボランティアメンバー、現地の日本人&フィリピン人ボランティアスタッフが惜しみない努力で LOOB の活動を支えてくれたからです。誠にありがとうございました。さらに前年に引き続き、外部団体からの助成金を受けたことで、特に「カラフナンごみ投棄場周辺住民支援」と「子ども教育サポート」を発展させることができました。

本書にて、多くの方の愛情と努力により達成した LOOB の活動の成果をご報告させていただきます。今後も日本フィリピンの青年ボランティアの地域交流や青少年育成活動を通じて、相互の発展に向けて尽力していきますので、応援宜しくお願いします。

2. 実施体制について

LOOB Organizational Chart (2009 年 11 月現在)



【LOOB 日本事務局】

非専従スタッフ 小林千恵子 (LOOB JAPAN 監事、北海道)

(東京・名古屋・大阪・九州ブランチは、各 10 数名の LOOB JAPAN 理事&運営委員が構成)

【LOOB フィリピン事務局】

専従スタッフ JOHN LOOT (LOOB Inc. 理事長)

専従スタッフ 小林幸恵 (LOOB JAPAN/LOOB Inc 代表理事)

専従スタッフ ROY TONDO (LOOB Inc. プログラムセクレタリー)

ボランティアスタッフ数名

(イロイロ市中心に約 30 名のフィリピン人ボランティア・コアメンバーが登録)

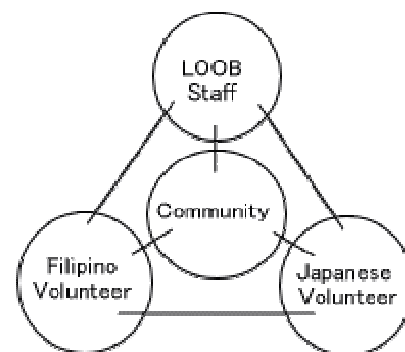
3. 事業に関する報告

(1) 地域協力・交流・青少年育成プログラムの実施

■A. ワークキャンプ事業

LOOBでは、国際協力・国際交流という2つの団体理念を包括的に実現でき、青少年育成として有効な手段であるワークキャンプの開催に重点を当てています。

2009年は、計6回のワークキャンプを開催し、日本人92人、フィリピン人50人、韓国人10人が参加しました。参加者は、ごみ問題、水不足、教室不足、生態系破壊といったコミュニティのさまざまな課題に向き合いながら、ホームステイや文化フォーラムなどを通して国際的な理解を深めることができました。



1. 第30回ECOキャンプ:

通算30回のワークキャンプ開催を記念し、先進国と途上国のエコ問題を「学び」「動き」「伝える」という新しいコンセプトのキャンプを開催しました。フィリピン大学での英語研修、マングローブ植林、**小学校の環境フォーラム**を実施し、参加者と地域の方々にエコ問題への意識を高めることができました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/30wc/rep.html>



2. 第31回ギマラス島ワークキャンプ:

ギマラス島の**小学校で井戸堀りやトイレ修繕**を行い、児童の衛生環境を改善しました。さらに、3地域から子ども35人を招待し、第2回目となる「無人島Kids Camp」を行い、子ども達には野外活動やチームワークを通じて成長できるプログラムを行いました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/31wc/rep.html>



3. 第32回日韓比ワークキャンプ:

韓国のNGO、LTWさんとの第1回共同キャンプ。ホームステイを受け入れてくれた自治体とともに、**6,800本のマングローブを植樹**しました。またホームステイや日韓比の文化紹介を小学校で行い、3つの国から来た若者がお互いの国の理解を深めることができました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/32pjk/rep.html>



4. 第33回パナイ島ワークキャンプ

2005年から関わっているナムコン村でのワーク。今回は**小学校の水道タンク建設、トイレの新設・補修**を行い、児童の衛生環境を改善しました。また、都心部の貧困問題をテーマにごみ投棄場や児童養護施設を訪問し、子ども達の取り巻く環境を学びながら、交流活動も行いました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/33wc/rep.html>



5. 第2回早稲田大学ESTキャンプ:

20名の新メンバーを迎えたESTと2回目のコラボ。**ランブナオ町の山奥で2つ目の教室を建設**しました。建設というハード面と教育支援というソフト面の両方を行うことで、地元の方々と有意義な交流を行うことができました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/tieups/repest2.html>



6. 第34回イロイロ市ワークキャンプ

ごみ投棄場の周辺コミュニティで初めてのワークキャンプ。全長700メートルの配水管を土に埋め、**小学校と住民のための安全な上水道を敷設**しました。日本人と初めて交流する方も多く、ホームステイや小学校では日本文化の普及に力を入れることができました。

<http://loobinc.com/WORKCAMP/34wc/rep.html>



B. マングローブ植林

100年前に50万ヘクタールあったマングローブ林は、人間生活のため伐採され、100年後の今は3分の1以下に減少しています。マングローブはエビや魚の稚魚を囲い育てたり、二酸化炭素を吸収したりとても重要な生態系なのです。

LOOBではフィリピンの環境保全と啓蒙のためにこのマングローブ植林を行っています。



- LOOB がワークキャンプのプロジェクトとして、マングローブ植林を開始したのは2007年8月。それから2009年末までに通算5回のマングローブ植林を行い、2地域で累計75,000本を植樹しました。天然環境資源省(DENR)が目標として定めるマングローブ林の回復面積83,000ヘクタールのうち、LOOBで7.5ヘクタールを寄与した計算となります。
- ただ、バロタックビエホで植樹したマングローブは害虫貝の被害があり死亡率が高かったことから、メンテナンス方法の改善を試作している段階です。

■ C. 「小学校のトイレ・水道整備」

WHO によると、児童数に対する理想的なトイレ数は、「児童 25～30 人に対し、トイレ 1 つ」となっています。これに対し、フィリピンでは小学校で 51:1、高校で 102:1 という状況です。トイレが足りない学校では、児童は校内の適当な場所で用を足すというのが共通の問題でした。



- LOOB では、ひろしま・祈りの石国際教育交流財団の助成を受け、4つの小学校でトイレ・水道設備を新設・修復し、児童の衛生環境を改善しました。
- 今回のトイレ水道整備により、以下の4校で、LOOB が作ったトイレにアクセスできる児童数とトイレの比率は以下の通り：
 - ギマラス島サンロケ小学校(280 人) 児童数とトイレの比率「93:1」
 - パナイ島マンドゥリアオ小学校(2,400 人) 児童数とトイレの比率「93:1」
 - パナイ島ナティビダッド小学校(120 人) 児童数とトイレの比率「60:1」
 - パナイ島ナムコン小学校(600 人) 児童数とトイレの比率「46:1」
- トイレの正しい使い方や衛生知識の普及も行ったことで、学校や PTA からは「手洗いの習慣が身につく、下痢やインフルエンザの予防に大きな役割を果たしている」との報告を受けています。

■ D. カラフナンごみ投棄場周辺住民支援事業

3 年目を迎えたイロイロ市カラフナンごみ投棄場での支援活動。衛生理立場の建設が進む中、いよいよウェストピッカーの ID 制がスタートし、失業を余儀なくされる住民が増えました。LOOB では、「成人への生活基盤安定」と「子どもへの教育活動」を平行して行うことで、コミュニティ、行政との関係を構築しながら地道な支援活動を行っています。

- **【井戸修繕】** 2009 年度は、「成人への生活基盤安定」として、ハビタットフレンズ仙台様とヨタ部品宮城共販様のご協力により、ごみ山に隣接する 4 つの地域で井戸を復活させるプロジェクトを行いました。新しい井戸を掘り、老朽化して使えないポンプを取り替えたことで、約 75 世帯(約 450 人)の人々が新しい水源を確保しました。 (<http://loobinc.com/sm05.html>)
- **【裁縫プロジェクト】** またウェストピッカー達の新しい仕事であるジュースパック製品の裁縫プロジェクト(UCLA)は、日本のメンバーからの支援により、前年比 2.3 倍増となる 75 万円の売上を達成。UCLA メンバーの収入の安定化につながりました。UCLA メンバーは、ジュースパック製品という物作りを通じて、「家計を支えることができる喜び」、「アイデ



ア・技術次第で製品が売れる喜び」、「自らの力で組合を運営していく喜び」を感じることができるようになっています。(<http://loobinc.com/sm04.html>)

- ▶ **【多目的ラーニングセンター】** ハビタットフレンズ仙台様と東北楽天ゴールデンイーグルスの岩隈選手のご協力により、ごみ投棄場の周辺住民が利用できる多目的ラーニングセンターを着工しました(2010年1月完成)。このセンターは、裁縫プロジェクトの新しい作業場となり、LOOBの週末英語アクティビティにも利用されます。幼い子ども達が遊べる託児スペースとしても使われる予定です。
- ▶ 「**子どもへの教育活動**」については、次項をご覧ください。



(2) 子ども達への教育・医療支援

■A. 子ども教育サポート

フィリピンの小学校の就学率は83%(西ビサヤ地方は75%)、また高校の就学率は59%(西ビサヤ地方は53%)です。就学しても経済的な理由で中途退学(ドロップアウト)を余技なくされる場合が多く、就学した児童の6割しか卒業できないという現状があります。LOOBでは日本の子ども教育サポート会員と公益信託今井記念海外協力基金のご協力を受け、2009年度は低所得家庭の計81名を支援することができました。LOOBはフィリピン教育省(DepEd)のノンフォーマル教育パートナーとして以下の支援内容を行っています。(<http://loobinc.com/edu01.html>)

- ▶ **【学資援助】** 3地域の低所得者世帯の子供達81名に対し、学資金を支給。
 - ギマラス島ヌエババレンシア町(小学生10名、高校生7名)
 - パナイ島ナムコン村(小学生7名、高校生7名、大学生2名)
 - イロイロ市カラフナン地区(小学生39名、高校生8名、大学生1名)LOOBは、年2回の礼状作成や家庭訪問を通して、子どもの家庭をモニタリングしています。
- ▶ **【子ども英語アクティビティ】** 子供達の英語力やアートでの表現能力を引き上げるための野外活動。毎週末に日比ボランティアが集まって企画～実施～評価までのプロセスを行いました。2009年は約40回実施しました。
 - パナイ島ナムコン村(参加人数20～30名)
 - イロイロ市カラフナン地区(参加人数50～60名)カラフナンのほうでは毎回、栄養食の配給も行いました。
- ▶ **【食育プロジェクト～給食】** 全校生徒(2,600人)のうち15%が栄養不良というマンドリアオ小学校にて、今井基金の支援を受け、2009年10月から80人前後の児童を対象に無料給食をスタートしました。給食を食べる前に、ボランティアスタッフによるミニ栄養講座を行い、子ども達に「食の楽しさ・栄養の大切さを教えています。この毎日の積み重ねにより、地域の食生活・栄養改善を目標としています。2010年も継続予定です。



■B. 子ども医療サポート

➤ 2008年に義足を提供した先天性肢体不自由の男児(8歳)に対しての義足メンテナンスおよび、左目の怪我により失明した女児(8歳)に対して、LOOBが治療費を負担しました。

■C. エコキャンペーン

➤ ジュースパック・リサイクル製品の製作のため、カラフナン地区で始めたジュースパックの回収作業を、他地域の小学校(2校)、高校(2校)、大学(2校)でエコ啓蒙活動として実施しました。2009年10月からイロイロ市内の各家庭ではごみ分別回収が本格的に始まりましたが、分別の習慣がまだ浸透していないため、今後も同キャンペーンでごみ削減に向けて市民の意識付けを行っていく予定です。



■D. 絵本翻訳

➤ 英語に翻訳された絵本を小学校などに寄贈する活動です。翻訳には大変な時間がかかりますが、現地ボランティアスタッフが日本から寄贈された絵本をこつこつと翻訳し、2009年は40冊の翻訳を完了しました。また大阪府立岸和田高校、大阪府立佐野高校のESSの皆さん達が、翻訳した計24冊の絵本をLOOBに送ってくれました。



(3) 困難な状況にある地域・世帯への物資支援

■A. 物資・衣類寄贈 (<http://loobinc.com/dn01.html>)

➤ 日本の支援者から頂いた衣類と生活用品を、現地の必要な方々に寄贈する活動。2009年の寄贈先は以下の通りです。

- ごみ投棄場のウェストピッカーズ協会
- 火災被災地の世帯
- イロイロ市障害者協会、バロタックビエホ障害者協会
- 児童養護施設
- マンドリアオ小学校音楽クラブ(楽器)
- ギマラス島ホールドアカデミー音楽クラブ(楽器)



■B. 被災地緊急支援

➤ 9月末にルソン島中部・南部を襲った台風16号(オンドイ)の被災者に向け、LOOBでは(特活)アジア・コミュニティ・センター21(ACC21)を通じて、小額ながら緊急救援活動を支援しました

(4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及

■A. 英語研修 (<http://loobinc.com/eng01.html>)

➤ フィリピン大学(UP)ビサヤのランゲージセンターとの提携事業。英語習得のみならずフィリピン文化や社会問題について理解を深め、さらにフィールドトリップではUPの大学生と意見交換したり、食文化に触れたり、と生のフィリピンを体験できるよう工夫しました。プログラム参加者には、週末の子供英語アクティビティにご協力頂きました。



■B. 日本語教育 (<http://loobinc.com/jp01.html>)

➤ LOOBのオープンクラスでは、主に大学生のフィリピン人が日本語基礎クラスに参加しました。イロイロ市に新設されたアジアン・ランゲージ・カルチャー・アカデミー(ALCA)との提携を開始し、同校にて日本語教師の活動を行いました。まだまだ参加者は少ないですが、地道な日本語教育の普及を目指しております。



(5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施

■A. 国際協力イベント&チャリティフリマ (<http://loobinc.com/charity.html>)

➤ 日本とフィリピンで国際協力イベント&チャリティフリマを実施しました。前年に比べて日本国内のチャリティフリマ開催数は減ってしまいましたが、その分、大規模なイベントに出展し、たくさんのメンバーが協力して活躍する場にもなりました。

- アースデー東京2009(4月18～19日)--99,500円
- 北海道フリマ(5月18日)--40,000円
- 大阪フリマ(7月5日)--800円
- 北海道フリマ(7月11日)--18,000円
- 東京フリマ(8月22日)--1,450円
- 北海道フリマ(9月20日)--18,000円
- グローバルフェスタ2009(10月3～4日)--95,000円
- パナイ島ナムコン村フィエスタ(4月)--3,000ペソ
- パナイ島ナムコン村フィエスタ(5月)--4,000ペソ
- CPU大学祭(9月)--2,000ペソ
- パナイ島ナムコン村フィエスタ(10月)--12,000ペソ

➤ 収益金184,000円は、2010年度の子ども教育サポート費にあてます。



■B. 説明会・交流会・広報活動

➤ 2009年は春・夏の現地プログラムの希望者に対し、東京、名古屋、大阪、福岡で説明会を実施しました。現地プログラムに参加した経験のある大学生・社会人が、フィリピンで感じたことをそのまま伝えることで、経験のアウトプットとなり、まだフィリピンやLOOBを知らない方に活動内容を広めることができました。ワークキャンプ参加者が集う静岡キャンプには、19名が参加し、日本国内での自主的な活動に向けて話し合いがもたれました。

■C. 学生ボランティア団体とのコラボ事業 (<http://loobinc.com/collabo.html>)

➤ 2009年は、大学生の国際協力・国際交流団体との提携を促進した年でもありました。5月から準備を進め、秋頃に4件のコラボ事業を実施することができました。主な活動はLOOB製作の環境問題に特化した写真展示会やフェアトレード商品の展示&販売でした。

- 富山大学 i.n.gさん(10月10～12日)
- 鳥取大学 ERU(11月7～8日)
- 神戸大学 KAYO(11月11日～13日)
- 広島大学 PeaCH(11月21日)



➤ 写真パネルには、フィリピンのごみの流れや投棄場の様子が分かるよう説明書きが付けられてました。「世界にはこんな現状があるんですね」「フィリピンの子どもたちの笑顔が輝いています」といった感想を頂きました。

■ D. カレンダープロジェクト (<http://loobinc.com/calendar.html>)

➤ 現地の日本人&フィリピン人ボランティアが企画したLOOB初の試み「カレンダープロジェクト」。アートクラスに参加した子どもが描いた12枚の絵を選び、その子どもと生活風景を写真で収めました。当初は、子ども達にカレンダーをプレゼントしたいという思いからスタートしましたが、最終的には日本のメンバーの多大なご協力により、450部をわずか4日間で完売し、その純利益で2010年度に18名の子どもの教育サポートを行うことができます。



■ E. ニュースレター発行

➤ 2009年1月と7月の2回、「LOOBニュースレター」発行。会員に配布するとともに、ホームページ上でPDF版を無料配布しました。

3. 事業地に関する報告 (<http://loobinc.com/site01.html>)

- バランガイ(行政最小単位)レベルで協議しながら、住民と相互協力の関係を築いています。2009年にはイロイロ市から東に2時間ほどにあるバロタックビエホが追加されました。
- LOOBのパートナー・コミュニティー一覧。
 - ギマラス島サンロケ村
 - パナイ島ティグバワン町ナムコン村
 - パナイ島ランブナオ町ナティビダッド村
 - パナイ島イロイロ市マンドリアオ地区カラフナン村
 - パナイ島バロタックビエホ町ヌエバセベリア村(2009年度から)

4. 助成金・受賞実績

今井記念国際協力基金 83 万円

ひろしま・祈りの石国際教育交流財団 76万円

「第2回かめのり賞」受賞 50万円



2009年の活動を支えてくださった全ての方々に感謝します。
ありがとうございました。

LOOBスタッフ&メンバー一同